



写真 マッカウス洞窟の氷筍（北海道羅臼町）

かわはく No.41

CONTENTS

夏期企画展案内「ひやっとコオリー水と氷のフシギ」	2
平成23年度特別展「発掘・発見 埼玉のふるさと秩父のおごっつおう」のみどころ	3
平成22年度春期企画展開催報告「コウモリー Bat な春休みー」	4
荒川ゼミナール「大人の遠足」開催報告&予告	5
かわはくGWまつり開催報告	5
スロープ展示紹介「センサーカメラで見るかわはくの生き物」	6
この夏の節電対策について	7
コラム・夏の虫	7



夏期 企画展案内

「ひやっとコオリ —水と氷のフシギ」

私たちの生活にとっても身近な水。言うまでもなく水は私たち生き物が生きていく上で欠かせない存在です。さて、その水はさまざまな形に姿を変えますが、この企画展では特に氷に注目しました。

「氷」というと、まず何を思い浮かべるでしょうか。地球上の水の殆どは海の水ですが、わずかにある淡水の多くは南極の氷として存在します。まずは南極の氷を迫力ある写真と実物で展示します。そして氷の形は様々。つららや池の氷、霜、樹霜、霜柱、氷瀑、氷柱……。美しく多様な氷の形は時に人を魅了してやみません。色々な氷の形を美しい写真で紹介します。流水に触るコーナーも設ける予定です。

ところでこの水はとてもおもしろい性質をもっているんです。美しい写真や珍しい氷の形の写真を見ながら「どうして氷は水にうくの?」「雪の結晶はどうやってできるの?」「水は0℃で凍らない?」など水と氷のフシギについて紹介します。

雪も氷のひとつの形なので、雪の結晶についても紹介します。雪の結晶が立体的で、六角形の雪の華の形以外にも針や鼓の形をした雪の結晶もあることはご存知でしょうか。実は知らなかった雪の結晶の形があるかもしれません……。雪の結晶のできかたや種類について、模型や写真を使って解説します。

また、長瀬で現在も作られている天然氷の作り方などについてジオラマで紹介する展示もあります。

後半では日本の雪氷事情として雪の降り方や雪との暮らし、氷と雪の利用について紹介します。雪との暮らしでは今より少し昔に使っていたソリやカン

ジキなど雪と暮らすための道具を紹介。今も使われているラッセル車（模型）やスタッドレスタイヤの展示も行います。氷と雪の利用では凍ることや氷を利用した食べ物について、また雪氷上のスポーツについて紹介します。他に雪の結晶をデザインした昔の着物や刀のつば、また現代の作品を紹介します。かわはくのコオリでは是非ひやっとして下さい！

(研究交流部 森 圭子)

＝関連イベントもあります！＝

★7月24日(日) 講演会 13:30～15:00

「身近な氷から環境を考える

～池と湖の氷・山の雪をみながら～」

講師：新井正氏（立正大学名誉教授）

氷の性質や身近な氷のお話の他、諏訪湖（長野県）と地球温暖化の関係、雪の降り方や融け方などについてお話します。

★7月31日(日) 氷の広場（夏祭りイベント）

天然氷食べ比べや氷柱に触るコーナーがあります。

★8月6日(土) 講演会 13:30～15:00

「南極の海と氷から地球の不思議をさぐる」

講師：牛尾収輝氏（国立極地研究所准教授）

南極の海と氷を調べることによって地球の謎を探る話のほか、昭和基地で体験した観測や生活の様子を紹介します。

★8月7日(日) 氷の実験教室（要申込・200円）

雪の結晶作りやダイヤモンドダストの観察など氷を使った実験に挑戦します。

（電力事情により変更・中止になる場合がありますのでご注意ください）



北海道羅臼町の流水



かわはくに来た霜柱



平成23年度
特別展

『発掘・発見 埼玉のふるさと 秩父のおごっつおう』のみどころ

会期:平成23年9月17日(土)~11月20日(日)

最近の特別展のトレンドに、郷土食があります。その背景には、核家族化と勤労者の多忙化による食生活の変化、そして急速に失われていく郷土の味、家庭の味に対する郷愁があるといえます。

自然の博物館と川の博物館では、荒川の上流域に位置する秩父地方を選んで、昨年度1年間にわたって食文化の調査を共同実施してきました。その結果わかったのは、昭和30年代にそれまでの伝統的な食生活が大きく変化したことでした。その原因はいくつか考えられますが、テレビの普及が大きかったといえます。

しかし、秩父の人々は、お祭り好きで、年中行事を大切にしている人が多く、そうした機会に、昔ながらの料理をこしらえ、みんなで食べる機会を今でも数多く持っています。

今回の特別展では、正月・小正月・お盆・十五夜・恵比寿講などの年中行事に伴う郷土料理、そして御田植祭・二十二夜講・甘酒祭・竜勢祭などで食べられる特別な料理を、実物そっくりな食品サンプルによって再現します。

この展覧会が食をめぐる環境変化や伝統食を未来へ継承する方策を考えるきっかけになれば幸いです。

(埼玉県立自然の博物館環境担当 若松良一・
埼玉県立川の博物館研究交流部 羽田武朗)

● みどころ1 「お正月の祝い膳」



カマボコ以外は全部手作りという驚きのおせち料理
(長瀨町井戸 鳥羽レイ子氏調理)

● みどころ2 「普段の食事」



麦飯とおつけ(味噌汁)と1菜の質素な食事
(皆野町三沢 新井君江氏調理)

● みどころ3 「花御堂こじゅうはんの小昼飯」



観音様の前で毎月行われる婦人だけの楽しい食事会
(秩父市中宮地町 花御堂講のみなさんの調理)

● みどころ4 「おつきりこみ」



米の取れない秩父ならではの郷土料理といえばコレ
(長瀨町風布 大野 定氏調理)



平成22年度春期企画展開催報告

「コウモリ - Batな春休み -」

2011年3月19日(土)～5月8日(日)の期間、春季企画展「コウモリ - Batな春休み -」を行いました。展示のほかに関連イベントとしてかわはく体験教室・「コウモリ観察会」、企画展関連講演会「コウモリのフシギ」を行いました。全体的な様子をレポートしたいと思います。

企画展示の期間はかわはく中にコウモリの要素をちりばめたいと思い、あちこちにミニ展示をしました。リバーホールには観光地にあるような「コウモリになって写真を撮ってみよう」を設置、ジャワオオコウモリ本物と同じ大きさの顔だしパネルを置きました。ワークショップではコウモリの形に色紙を切り取って棒に付けて遊ぶ「パタパタコウモリ作り」やコウモリが出す超音波を体験できるコウモリホンヤクライトを作成し「コウモリ超音波体験」を設置しました。

第2展示室では子供向けにコウモリクイズを実施し、正解者にはコウモリ下敷きをプレゼントしました(下敷きが無くなったためにGW期間はコウモリシールに変更)。コウモリクイズはとても好評で下敷きは430名もの方に、シールも400名もの方にプレゼントすることができました。絵本コーナーも設けたところ、熱心に読んでいる親子さんの姿が目につきました。期間中には展示解説も行いました。とくにGWの展示解説は好評で毎回15名ほどのお客さんが見に来てくださいました。



第二展示室のようす

関連イベントとして行ったかわサタ自然教室「コウモリ観察会」は当日雨が心配される中での実施になりましたが、最終的には博物館の外壁から飛び出すヒナコウモリを全員が見ることができました。参加者の皆さんの心掛けが良かったのでしよう。

講演会「コウモリのフシギ」ではコウモリの会・大沢夕志さんによる世界のコウモリについてのお話をしてもらい、参加者も熱心に聞いていました。

その他にはミュージアムショップコパンとも連携して、コウモリ缶バッジを置いていただきました。以外と好評で全種14種類を購入された方もいたそうです。



講演会「コウモリのフシギ」

アンケートからコウモリ展示を見ると、楽しかったという意見がほとんどでした。中には本物のコウモリを見てみたいと書いてくれた方もおり、展示のねらいが伝わったのではないかと思います。

展示を見に来てくださった方のほとんどの方のコウモリのイメージは、「怖くて気持ち悪いコウモリ」であったと思いますが、今回展示を見ていただいて「怖くて気持ち悪いけどちょっといい生き物」になってもらえたのではないのでしょうか？

展示・観察会・講演会ともに関係者のみなさんに大きくお世話になりました。この紙面を利用してお礼申し上げます。また、来館してくださった皆様にも感謝いたします。

(研究交流部 石井克彦)



荒川ゼミナール「大人の遠足」開催報告&予告

当館学芸員が自分の専門分野を生かしながら、毎回趣向を凝らし、(やや)マニアックな場所を巡る荒川ゼミナールの「大人の遠足」。

今年度はこれまでに4月に1回、そして6月に1回実施し、参加者の皆様と一緒に自然や歴史の勉強をしながら、楽しくウォーキングに出かけてきました。

4月のウォーキングでは、東武東上線高坂駅をスタート&ゴールとし、史跡・旧跡・自然の宝庫である、比企丘陵を歩きました。桜の花は一足遅く散ってしまいましたが、物見山公園ではツツジの花が、そしてふと周囲を見渡すと、活動を始めた生き物の姿や、新緑の緑、そしてお城や線路の跡も・・・参加者全員で春を満喫しました。

6月のウォーキングは、「元・荒川だった場所を見に行こう！」第一弾として、JR両国駅を出発し、かつて荒川の最下流域であった、隅田川周辺を散策しました。

東京の新ランドマークである、東京スカイツリーが目下建設中のこの地域一帯は、江戸時代は武家屋敷や蔵、長屋が広がる、江戸文化を育んだ

一地域であり、明治以降は日本の近代化を支え、さらに関東大震災と太平洋戦争を乗り越えて今日に至っている地域でもあります。そのため今回訪れた場所だけでも、年代もジャンルも実に多種多様なスポットが数多く点在しており、もちろん大相撲ゆかりの場所もあり、残念ながら目をつけていた場所全ては見回れませんでした。

当日は可能な限り見学しましたが、見学できなかった場所がほかにもたくさん・・・「元・荒川だった場所を見に行こう」企画は今回が一発目でしたので、今後2回、3回と続けていく中で、もう一度訪れてみたいと思います。

今後も楽しい遠足(ウォーキング)企画を考えていきますので、皆様ぜひご参加ください。

(研究交流部 羽田武朗)



4月のウォーキングの様子

●●かわばくGWまつり開催報告●●

4月29日(金・祝)から5月8日(日)の間、かわばくGWまつりが行われました。5月5日のこどもの日にちなんだ企画を中心に、日替わりでさまざまなイベントが10日間に渡って行われました。

本館リバーホールには足湯で菖蒲湯を体験するコーナー、おりがみでかぶとを作るコーナー、5月3日～5月5日は北條祭りのよろいを着て記念撮影をするコーナーが設けられました。こいのぼりのぬり絵は4月29日～5月2日に塗って頂いたものを、5月3日以降、多くの作品をリバーホールの階段に展示しました。GWまつり期間中のワークショップでは紙でこいのぼり作りを行い、大変好評でした。

春期企画展「コウモリ」の展示解説は毎日行われました。5月10日の地質の日になんだ、液化実験コーナーや新燃岳の噴出物等を展示したコーナーもありました。他にも、炭酸まんじゅう作り体験、お魚とふれあう体験コーナー、ぶんぶんごまなどを作る工作教室、自然観察ウォーク、

ちりモン、氷の実験、ストーンペインティングなど本当にイベント盛りだくさんでした。

また、5月3日～5月5日には、かわばくスタッフが持ち寄ったものでチャリティーフリーマーケットを開催しました。3日間で、14,740円が集まりました。この売上は、東日本大震災の義援金として、日本赤十字社をとおして全額被災地へ送られます。ご協力下さり、ありがとうございました。

次回のかわばくまつりは7月31日に夏まつりとして行われます。楽しい企画を準備していますので、ぜひ遊びに来て下さいね。

(研究交流部 杉内由佳)



こいのぼりぬり絵の展示の様子



スロープ展示紹介

「センサーカメラで見るかわはくの生き物」

6月7日～10月2日(予定)で、スロープ展示「センサーカメラで見るかわはくの生き物」を開催しています。

かわはくの敷地内や周辺では、さまざまな生き物が活動しているのが調査によってわかってきましたが、その記録として、昨年度は「宮川の生き物」を紹介しました。今年度は敷地内に設置したセンサーによる自動撮影カメラがとらえた動物たちを紹介します。

昼間かわはく敷地内では、さまざまな種の鳥類が樹木で餌をとる、上空を飛び交うなどの行動を観察することができます。しかし、自動撮影カメラではそれらの姿をとらえることはできませんでした。カメラがとらえたのは、おもに誰もいない時間帯である夜間に撮影された哺乳類たちでした。

鳥類

鳥類は、少ないながらも地上に降下して餌を探す種をカメラでとらえることができました。ただし、夜間ではなく日の出から日没にかけての撮影でした。在来種のキジバト、ハシブトガラス、ニホンキジ、シロハラ、ヒヨドリ、ツグミの6種、外来種のコジュケイ、ガビチョウの2種で計8種でした。中でもコジュケイは、親子で行動している姿をとらえ、近隣で繁殖していると考えられます。

哺乳類

哺乳類でカメラがとらえることができたのは、在来種がホンダタヌキ、ホンダギツネ、ニホンイタチ、キュウシュウノウサギ、ニホンテンの5種、外来種がハクビシン、アライグマの2種、ペット動物がイエネコ、イヌの2種で、計9種です。これらは、ほとんどが夜間に撮影されました。そして、毎日かわはくで働いている職員のほとんどが目にしていない種です。

かわはく周辺の河川敷はホンダタヌキ、ホンダギツネ、ニホンイタチ、キュウシュウノウサギなどが餌をとったり、巣穴をつくるなどに利用していると考えられます。最多撮影頭数はホンダタヌキであり、のべ66頭を数えました。しかし、ニホンテンはのべ2頭の撮影頭数でしたが、もっと

山地に近い地域に生息しているとされ、予想していなかった種でした。

その反面、外来種であるハクビシンやアライグマ、ペット動物のイエネコやイヌもカメラがとらえています。これらは、外来種や捨てペットの問題がかわはくの周辺でも発生していることを表していると考えます。(研究交流部 藤田宏之)



ホンダタヌキ



ハクビシン



キュウシュウノウサギ



この夏の節電対策について

3月11日の東北地方の大震災それに続く福島原発事故は発電総量不足をきたし、この夏節電が望まれています。川博も今夏、15%の節電をしなければならない状況です。運営する上で、電気料の契約電気料は非常に大きい支出項目です。契約電気料を引き下げなければなりません。運営を始めたときから3年間で約15%以上の契約基本料の引き下げにいたっています。契約基本料は、最も電気を使った時の電気量で契約します、そのために通常は60~70%の電気使用でも高い契約料を支払わなければなりません。最も多くなる夏場の電気使用量がそのまま契約電気量になるので、今の契約基本料の15%減の使用量が目標となります。よって、運営開始時の30%減の、使用電気料になります。節電できるところはだいたい実施済みですからさらに節電をしなければならないようです。節電の基本は、大水車を始め、わくわくランド、噴水池、粉ひき小屋の水車などのポンプ類の停止、冷房の設定を29℃に上げる、室内

の照明をさらに間引く、かつ省電力のLEDに交換という対策しかありません。ただし、来館者に対するサービスはなるべく落とさないように、裏方を中心に実施し、広報を徹底します。

この機会ですから節電をきっかけに私たちの身の回りについて考えるようにしてみたいかがでしょう？ エコ生活、効率優先の生活、サステナブルな生活、自然環境など考える良いきっかけです。すべて効率を求めてきた私たちでしたが、少々クーラーのきかなく暑い、薄暗い博物館に来て頂き、環境、効率エコ生活などを考えてみてはいかがでしょうか？。ですが、打ち水、夕涼み、すだれ、風鈴など伝統的な涼の取り方を取り入れながら、この暑い夏を過ごせるように工夫をし来館者に快適な空間を提供していきたいと思えます。それにしても、少々暑い夏になりそうです。熱中症には十分気を付けて対応しなければなりません。

(館長 平山良治)

コラム 夏の虫

夏になると虫たちを見る機会が増えます。夏の虫と聞かれて最初に思い浮かぶものは何でしょう？カブトムシ？ホタル？オニヤンマ？

私にとって夏の虫といえばセミです。なんといっても暑さを倍増させるような鳴き声が夏には欠かせません。セミと一口に言いますが、どんなセミがいるのでしょうか？川の博物館周辺では5月には早くもセミが鳴きだします。最近少なくなりましたがハルゼミというセミです。しかし夏らしいセミの鳴き声が聞こえるようになるのは6月中旬、ニイニイゼミというセミです。このあたりでは「ジジヤキ(方言名)」とも呼びます。ジージーと低い音から高い音へ音程を変えながら鳴きます。そして7月の夕方や朝早くにカナカナカナカナ・・・と鳴くヒグラシが現れます。夏休みが始まるころにはミンミンゼミやアブラゼミが鳴きだし夏の暑い空気をさらに暑くしてくれます。8月の中旬にはツクツクボウシ「オーシン(方言名)」が鳴きだして夏休みが終わることを

知らせてくれます。

セミは鳴いているのはすべてオスです。土の中で3~5年の長い時間をかけて成長し夏の夜にひっそりと成虫になります。このようにセミの声でも夏の移り変わりを知ることができます。またセミはカメムシの仲間です。カメムシの仲間の特徴はストロー状の口にあります。今年の夏はセミを見つけたら口の形を観察してみましょう。

(研究交流部 石井克彦)



夜に成虫へと変身(羽化)するセミ

8月

7/16/土~9/4/日

夏期企画展「ひやっとコオリー水と氷のフシギ」

1/月

かわはくであそぼう・まなぼう
水の日記念イベント「利き水体験」

時間：10:00~12:00 13:00~15:00

費用：無料

内容：利き水をしながら、水の性質や大切さを学びます。

6/土 企画展関連講演会「南極の海と氷から地球の不思議をさぐる」

時間：13:30~15:00

講師：牛尾収輝氏（国立極地研究所 准教授）

費用：無料 定員：80名 ☎

内容：南極の氷から地球の謎を探る話や南極観測の様子を話します。

7/日 企画展関連イベント「氷の実験」

時間：13:30~15:30

費用：200円

定員：25名 ☎

内容：雪の結晶づくりなど、氷をつかった実験をします。

18/木 川に親しむ教室「伝統漁法体験」

時間：10:30~12:00 14:00~15:30

費用：500円（保険料）

定員：各回50名 ☎

内容：荒川で行われていた昔ながらの漁法（投網など）を体験します。

20/土 かわサタ自然教室「砂浜のジオラマづくり」

時間：13:30~15:30

費用：300円（材料費）

定員：20名 ☎

内容：ケースの中に砂浜のミニジオラマをつくり、オブジェにします。

10月

2/日

企画展関連イベント・秩父の伝統食を作ろう①
「秩父の保存食えびしを作ろう」

時間：13:30~15:30

費用：300円（材料費）

定員：25名 ☎

15/土 かわはくであそぼう・まなぼう「シラスの中のチリモンさがし」

時間：13:30~15:30

費用：無料

内容：しらすの中に入っているいろいろな生き物（エビ・カニなど）を調べます。

16/日 企画展関連イベント・秩父の伝統食を作ろう②
「秩父のおやつ小屋飯を作ろう」

時間：13:30~15:30

費用：300円（材料費）

定員：25名 ☎

23/日 荒川ゼミナール・大人の遠足「秋のウォーキング」
詳細は未定です。今後ホームページ、行事予定等をご覧ください。

29/土 かわサタ自然教室「草木染めをしよう」

時間：13:30~15:30

費用：300円（材料費）

定員：25名 ☎

内容：河原に咲くセイタカアワダチソウを使い、外来種駆除をかねて草木染めをします。

9月

9/17/土~11/20/日

平成23年度特別展

「発掘・発見

埼玉のふるさと秩父のおごっつおう」

4/日 荒川ゼミナール・講演会 荒川の絶滅危惧種①「ムサシトミヨ」

時間：13:30~15:00

講師：金澤 光氏（埼玉県環境科学国際センター）

費用：無料

定員：80名 ☎

内容：荒川流域に生息し、絶滅危惧種に指定されている動物について、その生態と保全の取り組みを紹介します。

11/日 かわはくであそぼう・まなぼう「お月見体験・月よりだんご」

時間：13:30~15:30

費用：無料

内容：かわはく周辺に伝わるお月見の風習の体験をします。

19/月祝 企画展関連講演会「ハレの行事を考える一年中行事をめぐって」

時間：13:30~15:00

講師：柳 正博氏（さいたま民俗文化研究所）

費用：無料 定員：80名 ☎

内容：年中行事に見られる儀礼食から、秩父の食文化を探ります。

24/土 かわサタ自然教室「顕微鏡で秋の虫を観察」

時間：13:30~15:30

費用：100円（保険料）

定員：25名 ☎

内容：昆虫を捕まえて、体の仕組みを顕微鏡で観察します。

25/日 川に親しむ教室「砂金採り教室」

時間：10:00~12:00

費用：100円（保険料）

定員：20名 ☎

内容：かつては砂金が多く採れた荒川で、砂金の採集にチャレンジします。

11月

6/日

企画展関連講演会「伝統食の起源-珍しいお供え-」

時間：13:30~15:00

講師：若松 良一氏（埼玉県立自然の博物館）

費用：無料 定員：80名 ☎

内容：秩父地方の珍しい神饌を取り上げ、伝統食としての位置づけを考えます。

14/月 かわはく秋まつり

時間：10:00~16:00

内容：一日たのしく遊べるイベントを実施します。

14/月 企画展関連イベント・伝統食調理実演

内容：手打ちうどんなど伝統食の調理実演と試食を行います（予定）。

14/月 かわはくであそぼう・まなぼう「木の実遊び」

時間：10:00~12:00、13:00~15:00

費用：無料

内容：どんぐりコマやヤジロベエづくりを体験します。

20/日 荒川ゼミナール・講演会 荒川の絶滅危惧種②「ムジナモ」

時間：13:30~15:00

講師：柴田千晶氏（日本歯科大学）

費用：無料

定員：80名 ☎

内容：荒川流域に生息し、絶滅危惧種に指定されている動物について、その生態と保全の取り組みを紹介します。

26/土 かわサタ自然教室「いろいろなレプリカを作ろう」

時間：14:30~15:30

費用：300円（材料費）

定員：20名 ☎

内容：化石などいろいろなレプリカを作ります。

*イベントは電力事情により変更、中止になることがあります。事前にご確認下さい。

ホームページでも紹介しています！

<http://www.river-museum.jp/>

【お願い】①行事は都合により変更になることもあります。ご了承下さい。②☎印のついた行事は事前申込みが必要です。開催日の1ヶ月前より電話またはFAX、Eメールでお申し込みください。③定員になりしだい締め切ります。④川の情報もお寄せ下さい。

編集・発行

埼玉県立川の博物館

〒369-1217 埼玉県大里郡寄居町大字小園39番地

TEL/048-581-8739(研究交流部) FAX/048-581-7332

Eメール/web-master@river-museum.jp/



彩の国さいたま

2011年7月15日発行

